

研究計画書

|        |  |      |        |
|--------|--|------|--------|
| ゼミ名    | 上島ゼミ II  | チーム名 | 平等院上島堂 |
| タイトル   | 格差がむしばむ社会  |      |        |
| テーマ群   | c)公共経済   |      |        |
| メンバー   | 山下智也 練尾侑基 水口卓哉 池田沙有里 大西将生 川上亮 古村紀乃<br>榊原未来 高原愛美 久保さゆり  |      |        |
| 研究計画内容 | <p>現在、日本では急速に貧困化が進んでいる。この研究では、貧困化の現状を説明して、健全な社会をいかにして守るかを論じる。</p> <p>貧困化の状況は深刻である。生活保護の受給者は 211 万人を越えて、相対的貧困率は、1985 年の 12%から 2009 年には 16%に跳ね上がった。また、経済的に苦しい仮定に市区町村が学用品などを支給する就学援助制度の利用者は、小中学生の 7 人に 1 人に及ぶ。子どもの貧困率は先進 35 カ国の中で悪いほうから 9 番目だった。</p> <p>貧困は社会を蝕む。これは決して仮説の話ではなく、刻々と現実味を帯びている問題となっている。格差によって引き起こされる問題は、「子供の学力」「殺人発生率」「薬物、アルコール依存者」「精神疾患の割合」「人を信用できる割合」「乳児死亡率」など実に様々である。そして、これらの問題は格差が大きいほど深刻であるという研究結果が発表されている。</p> <p>では、格差拡大・貧困化をどのように防げばいいのか。生活保護制度と最低賃金制度の関係はどうあるべきか、親の経済的地位による子どもの学力格差をどう縮小させるか、不安定・低賃金雇用者をどう救うべきか、われわれは今後あるべき社会保障制度の姿をはっきりと示したい。</p> <p>本研究により、日本における格差の現状の諸問題を明らかにできることを期待し、今後の対応策を検討したい。そして、その研究結果を提案することによって、これから社会に出る私たち一人ひとりが格差問題に目を向け、考える機会の一因となれば幸いである。</p> |      |        |